



町に気軽に集まれる
コミュニティスペースを



町の魅力をPRする
Mashi フェスの開催



オリジナルの街灯で
明るく安全な町に



観光名所と町の未来を
描いた未来予想図を



益城チャンネルで
町の魅力を発信したい

1月14日、町保健福祉センターに32人の若者が集まり、10月、12月に実施した「益城町未来トーク」の第3弾となる、「未来トークプロジェクト会議」が開催されました。

参加者は、「プロジェクトが益城町の復興にどう役立つのか」「自分たちの具体的な役割は何か」「これからの具体的な計画」についてグループごとに話し合いました。

前回までの「未来トーク」よりも、実現に向けたより具体的な内容を話し合ったため、「これでは実現できないのでは？」などと厳しい意見も出ましたが、参加者は「幅広い世代を巻き込んで継続的に益城を元気にしていくような力を」「住民みんなが笑顔になれるような未来を創造していきたい」といったそれぞれの思いを積極的に伝え合い、会場は終始和やかな雰囲気でした。

今回、ゲストとして参加した大津町総合政策課の緒方雅一おがたまさかず審議員が、大津町で地方創生に携わる経験から「どのように周囲を巻き込んでいくのか」という話や、「自分はこのためにやっているという『未来』が必要」「気付いた人には気付いたなりの責任がある。一歩踏み出す勇気」などのアドバイスをすると、真剣な表情でうなずく参加者の姿が多く見られ、強い思いが感じられました。

最終的に五つのプロジェクトチームを結成し、それぞれの若者たちの活動がいよいよ動き出します。3月には中間発表会を予定されており、若者たちのこれからに期待が高まります。

まつい やすろう
松井 康朗 さん
(御船高校2年)

3回目の参加です。今まで話し合いをしてきたことが形になる兆しが見え、わくわくしてきました。

ながの こころ
永野 心 さん
(マリスト学園高校2年)

みんなが打ち解けて楽しかったです。自分たちで考えた街灯が川沿いを明るくしてくれたらいいと思います。



それぞれのプロジェクトチームに分かれた参加者